

少子高齢化…「墓守」困難に

合同墓道内に次々

道内で多くの人の遺骨を共同で納める「合同墓」を設置する自治体が増えている。道内35市のうち合同墓があるのは19市で、札幌以外の18市は2012年度以降に設けた。少子高齢化で子孫への墓の継承が難しいことなどを理由に、先祖から受け継いだ墓を閉め、管理不要な合同墓に遺骨を納め直す市民も多い。ただ、合同墓は他人の遺骨と交じるため、再び引き取ることができないといい、専門家は慎重な検討を呼びかけている。

(岩崎あんり)



札幌市宮平岸霊園の合同墓。最近、納骨申請数が急増している

19市設置 4市検討

使用開始時期

札幌市	1966年
小樽市	2012年10月
北見市	13年 4月
網走市	10月
帯広市	15年 4月
千歳市	5月
江別市	6月
北広島市	9月
恵庭市	10月
北斗市	16年11月
根室市	12月
士別市	17年 5月
室蘭市	10月
岩見沢市	18年 4月
苫小牧市	18年 4月
深川市	9月
旭川市	9月
砂川市	10月
登別市	11月(予定)

※設置に向け検討を進めている自治体
石狩市、留萌市、三笠市、富良野市

道内で合同墓を設置済みの市

8月中旬、札幌市豊平区の市宮平岸霊園。東区の鹿野紀夫さん(86)は妻(83)と合同墓の前で手を合わせた。室蘭市出身の鹿野さんは昨年、地元の墓を閉めて両親の遺骨を移した。息子と娘はともに札幌に住んでいるが、鹿野さんは「墓を継がせると、子どもたちにとって大きな負担になる」。自身も高齢になり、「墓守」を自分の代で終わ

りにした。鹿野さん夫妻も合同墓に納めてもらうという。「整理がついて肩の荷が下りた」。鹿野さんは語る。道内の市のうち、合同墓を持つているのは札幌市だけだったが、ここ数年で全道的に急増。本年度も、11月に使用開始予定の登別市を含めて5市が設置した。三笠市など4市も設置を検討している。

管理不要で費用減／「家」失い後悔も

合同墓はかつての「無縁墓」としてきた。しかし少子高齢化や経費で、墓の維持管理も多く、管理費用負担も少ない注目されるよう納骨時の利用2万円で、大半年間の管理料はい。平岸霊園に幌市の場合、利用の9100円1人暮らしのさん(76)は石狩市は数年前、母岸霊園の合同墓「墓を建てると数十万円かかる」の納骨堂も年は数万円に上ると話す。札幌市生活環境と、年間の納骨年度の436体度には1748増えた。4年前